

改憲勢力の3分の2割れを実現し、政権交代へのステップへ

2019年参院選は国政の大きな節目となります。立憲主義に反する安倍首相の9条改憲をなんとしても止める必要があります。今年の参院選は2013年の自民・公明・維新などの改憲勢力が大勝した選挙の改選議員が対象となります。選挙区、とりわけ2013年に2勝29敗と立憲野党側が惨敗した一人区での勝敗が改憲勢力の3分の2割れへの大きなポイントとなります。

今回の選挙は統一自治体選挙後の「選挙疲れ」で投票率の低下が予想されます。また、安倍政権は今秋の消費税増税を打ち出しています。国際的な経済情勢が不安定な中で時期や増税の対象者を間違った経済・財政政策の失敗は明らかです。他にも昨年から続く森友学園・加計学園疑惑、数々の大臣クラスの失言、そして安倍首相自身も最後の総裁任期（2021年9月まで）であり求心力の低下も見受けられます。

このように、改憲勢力とりわけ自民党は苦しい状況にあります。緑の党メンバーは各地の政党間の接着剤、そして市民運動の担い手として立憲野党の勝利に向けて活動していきます。

今回の参院選で立憲野党が一定議席を獲得すれば、次の衆院選と2022年参院選によって立憲野党中心の政権交代が見えてきます。

ヨーロッパなど世界で活躍する緑の党は、地域で実力を蓄える第一ステップ、国会に議席を得て政権交代時に連立政権に参加する第二ステップと、着実に市民に認知され政策能力を高めて大きく躍進しています。

私たちも、着実なステップアップをめざして2019年参院選に全力で取り組みます。

具体的には以下の取り組みを行います。

1. 選挙区においては立憲野党の議席増をめざします

1) 32ある一人区では野党統一候補を実現し、勝利をめざします。

党として各地の野党統一の動きに賛同し、野党の話し合いの接着剤としての役割を果たしていきます。すでに市民連合・ミナセンなどで事務局の支援など実務を担っている各地のメンバーとの情報共有を進めます。

2) 複数区では党の推薦候補者を決め、立憲野党議席が最大となるように支援します。

立憲野党の競い合いとなる複数区においては理念の近さや選挙情勢などを見極め、立憲野党議席が最大となるように推薦候補を絞り込み支援します。

2. 比例区では立憲野党の候補者を推薦・支援し、当選をめざします。

推薦にあたっては、緑の社会ビジョンをもとに以下の4つの柱を基準とした政策協定を結びます。

①脱原発・再生可能エネルギーの推進と地球温暖化の防止

②民主主義の尊重—憲法9条改憲に反対する

③持続可能な経済—公正な税負担で格差と貧困をなくす

④女性議員を増やし、多様な人々が平等に働き暮らせる社会をめざす

政策協定は、それぞれの地域事情や候補者の政策などにより協議します。